

2014年3月期 上期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2013年11月6日

2014年3月期第2四半期の決算概要を説明いたします。

上期決算ハイライト

連結

- 売上・利益ともに想定通りの進捗
- 四半期毎の利益改善は着実に進む

心臓血管

- カテーテル事業は欧米で二桁伸長を継続
- ペリフェラル戦略製品ミサゴが国内で好調を維持
- ニューロはパイプライン製品を着実にローンチ
- 品質システム改善投資は年度末完了に向け進捗

血液

- 急激な市場環境変化の下でも堅調に推移

ホスピタル

- 生産性改善を推進



2013/11/6

©Terumo Corporation

2/31

はじめに上期の決算ハイライトについてご説明します。

まず、連結業績ですが、円安効果もあり、上期決算は売上・利益とも増収・増益を達成しました。また、四半期毎の動きとしても、収益の改善が着実に進捗しました。

事業毎では、心臓血管事業において、これまで全社を牽引してきました欧米のカテーテル事業が、厳しい市場環境にも関わらず、引き続き二桁伸長を達成しました。また、中期経営計画の柱の一つであるペリフェラル、ニューロ分野で予定通り新製品をローンチしました。血液システム事業では、欧米で血液の使用量が減少していると言われていた中でも収益を確保しました。ホスピタル事業では、引き続き生産性の改善に取り組みました。

決算概要：増収増益を達成

	13/3期上期	14/3期上期	増減率
売上高	1,918	2,260	+18%
粗利益	1,005 (52.4%)	1,172 (51.8%)	+17%
一般管理費	599 (31.2%)	714 (31.5%)	+19%
開発費	124 (6.5%)	153 (6.8%)	+23%
営業利益	282 (14.7%)	305 (13.5%)	+8%
(のれん等償却除く)	348 (18.1%)	385 (17.0%)	+11%
経常利益	242 (12.6%)	296 (13.1%)	+22%
純利益	145 (7.6%)	195 (8.6%)	+34%
EBITDA (営利+償却費)	437	493	+13%
期中平均レート	US\$ 79円 EUR 101円	99円 130円	

(億円)



2013/11/6

©Terumo Corporation

3/31

2014年3月期上期の決算概要について説明します。

昨年度と比較して進んできました円安ですが、第2四半期までの期中平均レートは1ドル99円、1ユーロ130円となりました。この円安の効果もあり、売上高は前期比18%増の2,260億円となりました。この売上高には271億円の為替のプラスが含まれています。

粗利益率は、生産性が大きく寄与した前年同期と比較して、0.6ポイント低下しました。販管費は為替の影響もあり、前期比20%の増加となりましたが、為替影響を除くと伸長率はほぼ売上伸長率の範囲内でコントロールしました。この結果、営業利益は305億円、前期比8%のプラスとなりました。この営業利益には81億円の為替のプラスが含まれています。

経常利益は、円安による為替差益で22%伸長の296億円、当期純利益は、法人税等の影響で、前期比34%増の195億円となりました。今回の上期決算は、上期業績予想に対して、ほぼ想定通りの進捗となりました。

事業別 地域別 売上高と伸長率

カテーテルは欧米で二桁伸長継続

(億円)

事業セグメント	日本	海外計	地域別				合計
			欧州	米州	中国	アジア	
ホスピタル	627 (3%)	184 (2%)	56 (-10%)	44 (1%)	6 (-16%)	79 (15%)	812 (2%)
心臓血管	242 (6%)	766 (6%)	280 (6%)	315 (7%)	88 (13%)	83 (-3%)	1,008 (6%)
うちカテーテル	188 (8%)	566 (9%)	218 (10%)	200 (10%)	83 (13%)	65 (2%)	754 (9%)
血液システム	63 (5%)	378 (6%)	119 (4%)	183 (4%)	18 (14%)	58 (19%)	441 (6%)
合計	932 (3%)	1,329 (6%)	456 (3%)	541 (5%)	112 (11%)	219 (8%)	2,260 (5%)

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く



2013/11/6

©Terumo Corporation

4/31

この表は事業セグメント、地域毎の売上と伸長率を示しています。カッコ内は為替影響、そして前年度2月に譲渡しました在宅酸素・在宅輸液事業の影響を除いた伸長率を示しています。

ホスピタル事業では、国内でドラッグ&デバイス事業における受託ビジネスやDM事業が堅調に推移しました。海外では、北米や欧州で低収益ビジネスの見直しを継続していることもあり低成長となっていますが、一方で高収益品であるスマートポンプなどの拡販を進めていることから、その効果が今後顕在化してくるかと考えています。

心臓血管事業では、中期経営計画の注力分野であるペリフェラル領域の末梢動脈治療用ステント「ミサゴ」が順調に売上を伸ばしました。一方、海外ではカテーテル事業が堅調に推移し、二桁成長を維持しています。特にTRIを中心としたアクセス製品が安定的に成長を牽引しています。第1四半期で報告した欧州での新コンピューターシステムの立ち上げに伴う出荷遅れの影響はほぼ解消に向かっており、中国代理店のニューロ製品の在庫調整の問題もほぼ解消しました。

血液システム事業では、国内ではBCT製品を含めた成分採血関連製品が好調に推移しました。海外では治療アフエーシス、欧州では血液センターの効率化に寄与する血液自動製剤システムの導入が進みました。

販管費

一般管理費は売上伸長の範囲内にコントロール
 研究開発費は注力分野に投入

(億円)

	13/3期上期*	14/3期上期	増減	増減率
一般管理費計	689	714	+25	+ 4%
研究開発費	138	153	+15	+11%
販管費合計	827	867	+40	+ 5%

* : 為替の影響を除いた換算値

- 米州のカテ、ニューロ販売力の強化
- ニューロ新製品、血液システム(治療アフエレーシス・血液自動製剤システム)へ開発費を投下



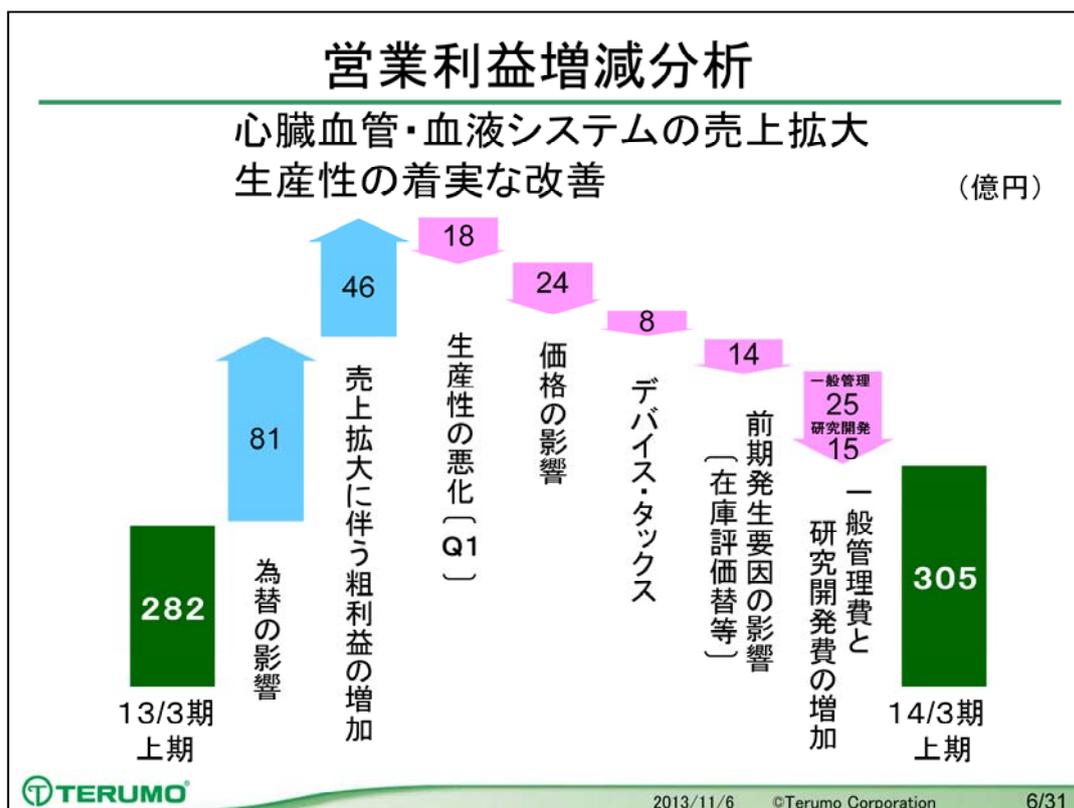
2013/11/6

©Terumo Corporation

5/31

販管費の状況について説明します。

販管費は20%の増加となりましたが、為替影響を除くと5%伸長となります。一般管理費は注力分野である欧州のカテ、ニューロの販売力強化に投下しました。研究開発費はカテーテル製品や血液システム製品の開発を中心に積極投資を継続させています。全体としては売上の伸びの範囲内でコントロールしました。



営業利益の増減分析です。

為替効果がプラス 81億円、売上増加による粗利益の増加のプラス効果もありましたが、新製品の立ち上げ段階での固定費負担の増加や新たに導入した設備の償却費の増加などのマイナス効果も発生しました。このうち新製品の立ち上げに伴う生産性悪化については第1四半期から改善の方向にあります。これ以外に価格の影響や米国でのデバイス・タックス、また前期に寄与した在庫の評価替えが、前期比較ではマイナスとして利益差額となりました。これらの要因により、営業利益は23億円増の305億円となりました。

四半期の動き

収益率を着実に改善

(億円)

	FY12Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY13Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上高	960	1,039	1,065	1,111	1,149
粗利益	488 (50.9%)	529 (50.9%)	522 (49.0%)	570 (51.3%)	601 (52.3%)
販管費	361 (37.6%)	385 (37.0%)	416 (39.1%)	437 (39.3%)	430 (37.4%)
営業利益	127 (13.3%)	144 (13.9%)	106 (9.9%)	133 (12.0%)	171 (14.9%)

期中平均レート	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
US\$	79円	81円	92円	99円	99円
EUR	98円	105円	122円	129円	131円



2013/11/6

©Terumo Corporation

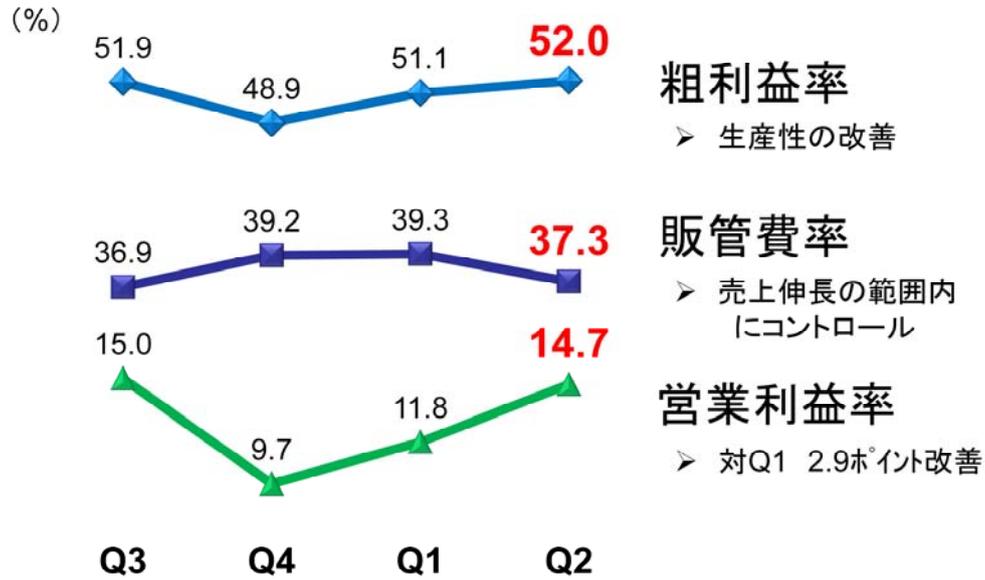
7/31

過去1年間の四半期毎の収益の動きを説明します。

前期から収益性の悪化が課題となっておりましたが、今期の第1四半期から利益率の改善が着実に進みつつあります。今後も中期経営計画で掲げた利益率の目標に向けて改善を進めていきたいと考えています。

粗利益率、販管費率、営業利益率

為替影響を除いても収益率を着実に改善



(為替の影響を除く、各四半期の3ヶ月単位)



2013/11/6

©Terumo Corporation

8/31

尚、こちらのグラフが示している通り、為替の影響を除いても、粗利益率、営業利益率共に着実に改善しております。

上期業績予想の進捗状況

想定通りの進捗

(億円)

	上期業績予想	上期実績	増減	対予想比
売上高	2, 220	2, 260	+40	102%
営業利益	300 (13.5%)	305 (13.5%)	+ 5	102%
経常利益	285 (12.8%)	296 (13.1%)	+11	104%
純利益	190 (8.6%)	195 (8.6%)	+ 5	103%

期中平均レート 見通し 実績
 US\$ 95円 99円
 EUR 123円 130円



2013/11/6

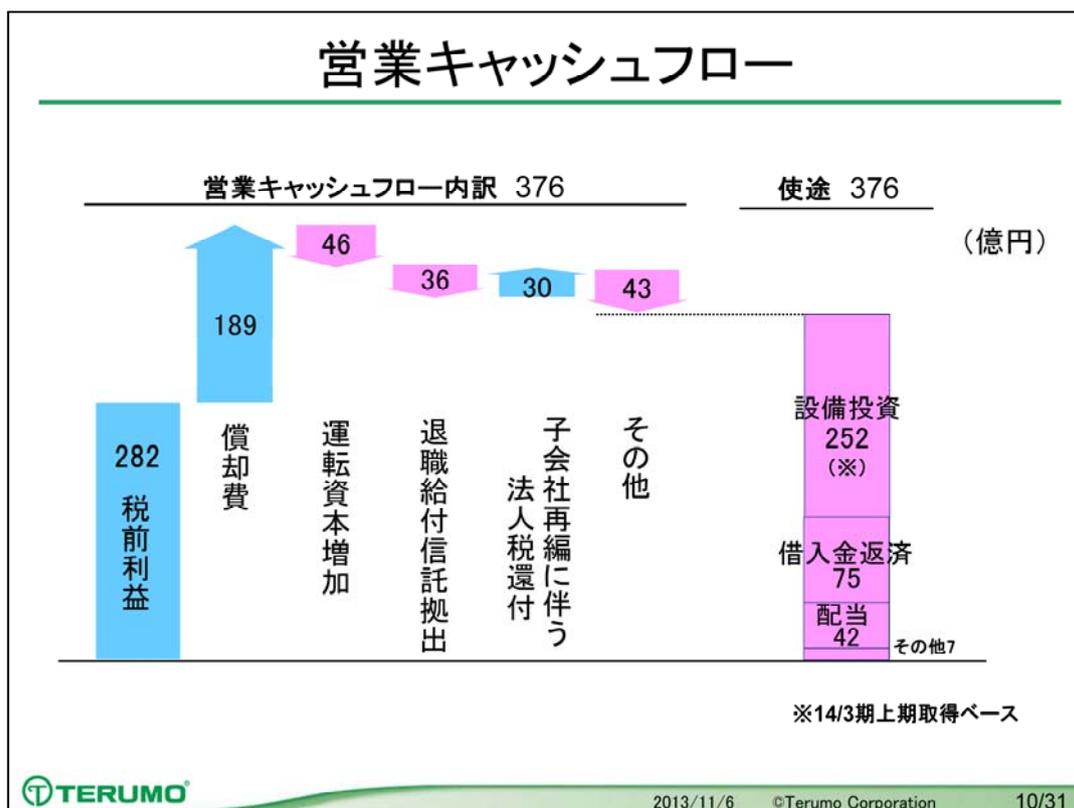
©Terumo Corporation

9/31

上期業績予想に対する進捗状況です。

為替による追い風もありますが、ほぼ想定通りの決算と言えます。

営業キャッシュフロー



次に営業キャッシュフローです。

税引き前利益の増加や昨年度実施した米国子会社再編に伴う法人税の一部戻り等により、営業キャッシュフローは376億円を確保しました。この営業キャッシュフローを山口工場や血液システムのベトナム工場等への成長投資に252億円、借入金の返済に75億円、配当原資に42億円とバランス良く配分しました。下期もこの基本方針の下、適切な運用を継続します。

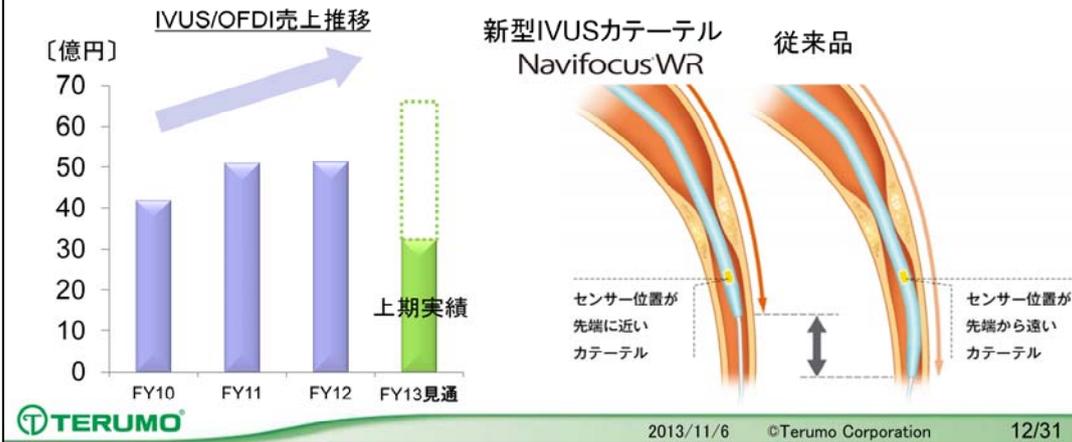
上期と下期の取り組み

上期と下期の取り組みについて説明いたします。

国内IVUSを好調に拡大(上期28億円、シェア30%)

■ 高い精度の画像診断によりPCIの治療戦略をサポート

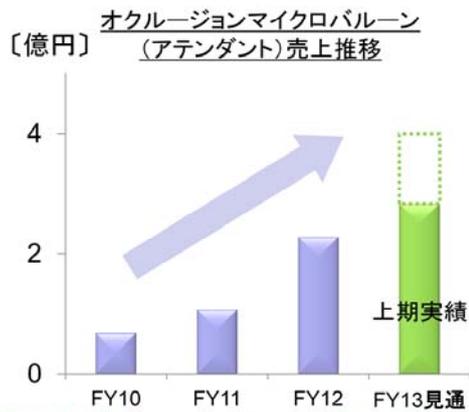
- 新型IVUSカテーテル投入(センサー位置を先端により近く)
 - ・ 従来型では観察できなかった病変へ到達可能に
- IVUSを軸にステント・バルーンとのバンドリングで拡販
- 世界で唯一 IVUS/OFDIを展開、画像を軸にPCIの拡大を目指す



カテーテル事業では、国内IVUSの売上が好調で上期 28億円、シェア 30%を維持しました。今年5月にローンチした新型IVUSカテーテルは、従来型では観察できなかった病変への到達が可能となり、PCIの治療戦略をより幅広くサポートできるものとなっています。当社は世界で唯一、IVUSとOFDIの双方の画像システムを展開しており、今後も画像ソリューションを軸にPCIの拡大を目指します。

肝臓がんバルーン分野に参入(上期 3億円)

- バルーンで一時的に血管を塞栓、抗がん剤を効果的に注入し、腫瘍を壊死させる治療法「B-TACE」の普及
- 従来品より先端が細く、末梢血管への到達性が評価される



TERUMO

2013/11/6

©Terumo Corporation

13/31

ペリフェラルの腹部領域では、肝臓がんの抗がん剤を患部へ効果的に注入できるバルーン、アテンダントデルタを発売しました。この製品はバルーン部分を細く設計し、より患者さんの負担を軽減できる仕様としました。

さらに、ガイドワイヤーとの併用時に血管内でスムーズに操作可能な設計となっており、このような複数デバイスの使用を意識した仕様が現場で評価され、上期の売上は3億円まで拡大しました。

血液システムは新製品により着実に拡大(上期6%伸長)

■ 全血で製剤化プロセス自動化の提案

- 自動化で時間短縮・省力化・省スペース・製剤品質均一化
- 全世界の製剤プロセスに対応

採血効率向上・作業効率向上



■ 血漿交換・細胞治療システムの拡大

- 高シェア製品COBE SpectraからOptiaへのアップグレード促進
- プロトコール開発による適用疾患拡大・治療法多様化への対応



Optia



2013/11/6

©Terumo Corporation

14/31

血液システム事業では、二つの製品が成長を牽引し、上期は6%伸長を達成しました。

一つ目は血液自動製剤システムです。全血の製剤化プロセスを自動化するシステムを提案しており、血液センターの業務効率化や製剤品質の均一化に貢献します。

二つ目は血漿交換・細胞治療システムです。この分野で現在高いシェアを誇るCOBE SpectraからOptiaへのアップグレードを促進しています。また、プロトコール開発を加速化し、適用疾患の拡大や治療法多様化への対応も進めています。

上期に中計新製品を着実にローンチ

領域	製品	FY13	Q1	Q2
ペリフェラル	ステント(膝上)	日	●	
脳	血流改変ステント	欧	●	
	オクルージョン・バルーン	日	●	
心臓	OFDI(血管内画像診断装置)	日	●	
	TRI用細物シース	米		●
アブレーション	腎除神経カテーテル	欧	●	
	TRI用腎除神経カテーテル	欧		●
血液システム	血液自動製剤システム(PRP法)	欧	●	
	血液自動製剤システム(BC法)	欧	●	
	細胞治療用装置(骨髄幹細胞対応)	日		●
輸液システム	安全機構付き静脈留置針	米・亜	●	
	スマートポンプ	欧	●	



2013/11/6

©Terumo Corporation

15/31

中期経営計画で示したパイプライン製品のローンチ状況を説明します。

スライドに示した表は中期経営計画における各事業の製品パイプラインのうち、今期ローンチ予定の製品を抜き出したものです。第1四半期に引き続き、予定通りに新製品をローンチさせました。

TRI用シース : Glidesheath Slender (GSS)

- 高齢者・女性など動脈の細い患者をTRI対象へ
 - 内径をそのままに外径を細径化
 - 血管内壁損傷のリスクを低減、止血時間の短縮へ
- 2014年度に10億円の売上を目指す



Glidesheath slenderはTRI用のシースです。

手首から挿入するシースは当然細い外径が必要ですが、この外径を更に細くしたものがこの製品です。内径はそのままなので、今まで通りの使用感を維持しつつ、外径を細くしたことにより、高齢者や女性にもやさしい医療を提供できるようになります。2014年度に10億円の売上を目指しています。

下期の主な取り組み

■ 新製品・既存製品による売上拡大

- 中計パイプライン製品の確実なローンチ
- 既存製品の販売拡大
 - ・ 心臓血管: TRI関連製品投入によるアクセスの継続拡大
 - ・ ホスピタル: スマートポンプのグローバルでの導入促進
 - ・ 血液: 欧州での血液自動製剤システムの拡大

■ TCVS品質システム改善活動

- 投資: 上期 27億円、下期は半減へ
- 来年3月に販売制限解除予定

■ ホスピタル事業の生産性改善

- 新製品の量産化、海外工場移管によるコスト低減



2013/11/6

©Terumo Corporation

17/31

下期の取り組みです。

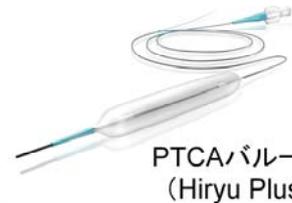
今後もパイプラインの新製品や、機能追加品の確実なローンチはもちろんのこと、その後、販売する国や地域の拡大を図ることにより、当期の業績予想、そして中期経営計画の達成を目指します。

また、TCVSの品質投資ですが、上期は想定よりも若干多い27億円を投資しました。下期は半減する予定で、来年度には売上挽回を図っていきます。

ホスピタルは第1四半期で新製品の導入時のコスト増が発生しましたが、これについても継続的に改善を図っていきます。

下期のパイプライン製品のローンチ予定

領域	製品	地域
ペリフェラル	バルーン(膝下)	欧
	ステント(膝下)	欧
脳	コイルアシスト・ステント	中国
心臓	新PTCAバルーン	日
	TRI用細物シース	日
血液システム	成分採血装置(血漿採血対応)	日
	統合データ管理システム(TACSI対応)	欧
輸液システム	閉鎖式輸液ライン	日
	スマートポンプ	亜

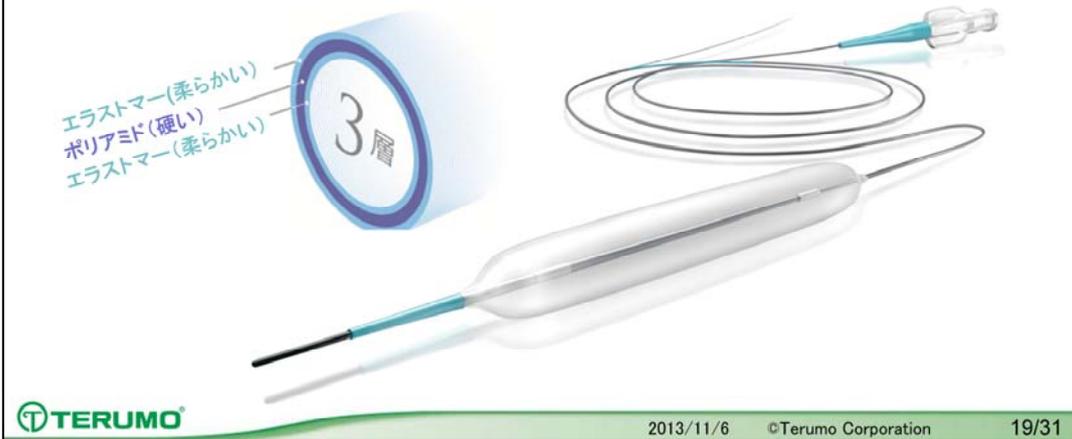


こちらが下期にローンチを予定しているパイプライン製品です。

カテーテル事業の重点領域であるペリフェラル、脳血管領域でのラインナップ拡充や、ホスピタルでのセーフティー輸液システムの一端を担う閉鎖式輸液ラインのローンチなどを予定しております。

PTCAバルーン (Hiryu Plus)

- 国内最先端技術の導入で成熟市場で差別化を図る
 - 3層構造バルーンで耐圧性と柔軟性を両立
 - シャフト構造を改良し、システム全体の操作性を向上
- 2014年度に16億円の売上を目指す



11月にローンチ予定のHiryu Plusは、3層構造のバルーンとなっており、耐圧性と柔軟性を両立させています。また、シャフト構造に改良を加えたことで、システム全体の操作性も向上させました。

当製品は成熟する国内PTCAバルーン市場に新たな話題を提供するものになると考えており、2014年度に16億円の売上を目指しています。

通期業績予想は変更なし

(億円)

	14/3期 予想	対前年 増減率
売上高	4,600	+14%
営業利益	700 (15.2%)	+32%
(のれん等償却除く)	850 (18.5%)	+27%
経常利益	675	+31%
純利益	420	-11%

下期想定レート

米ドル 95円

ユーロ 123円



2013/11/6

©Terumo Corporation

20/31

このような取り組みを実施することにより、期首予想の収益の達成を目指します。なお、為替については、下期想定レート1ドル95円、1ユーロ123円を想定しております。

以上で、2014年3月期 第二四半期の決算概要の説明を終了致します。ご清聴ありがとうございました。

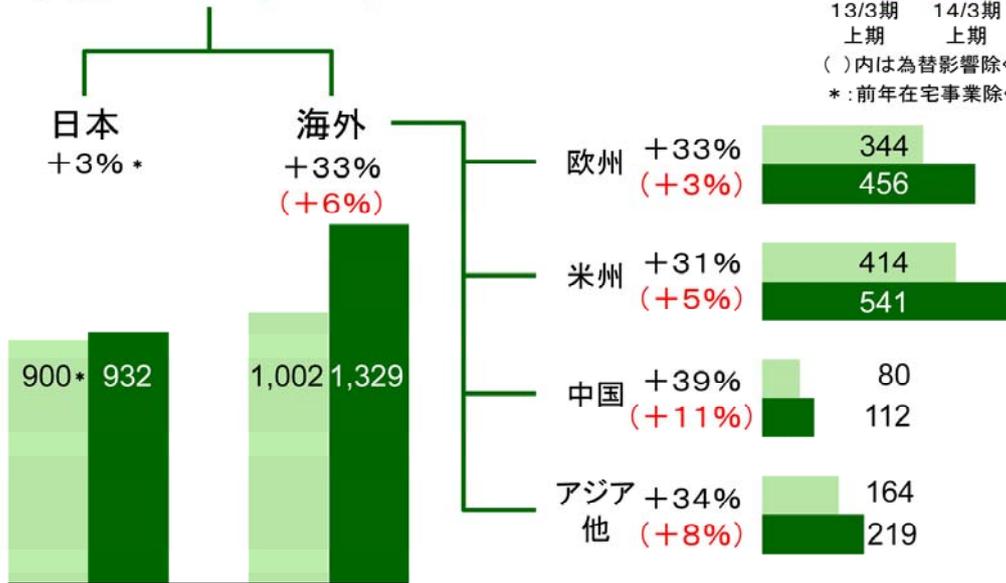
参考資料

売上高 地域別

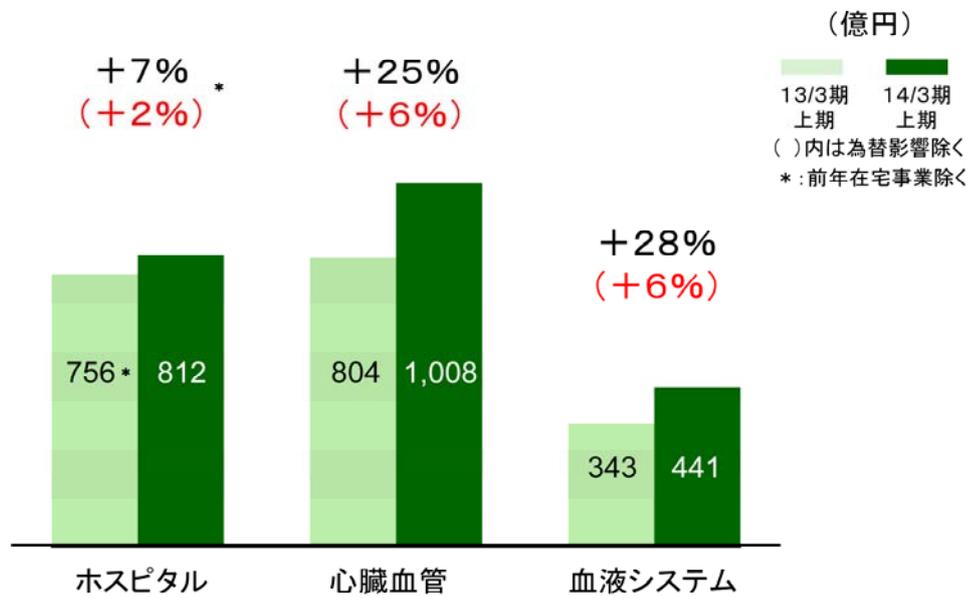
連結: +19% (+5%)*

(億円)

13/3期 14/3期
上期 上期
()内は為替影響除く
*: 前年在宅事業除く



売上高 事業セグメント別



事業別 地域別売上高と伸長率 (Q2のみ)

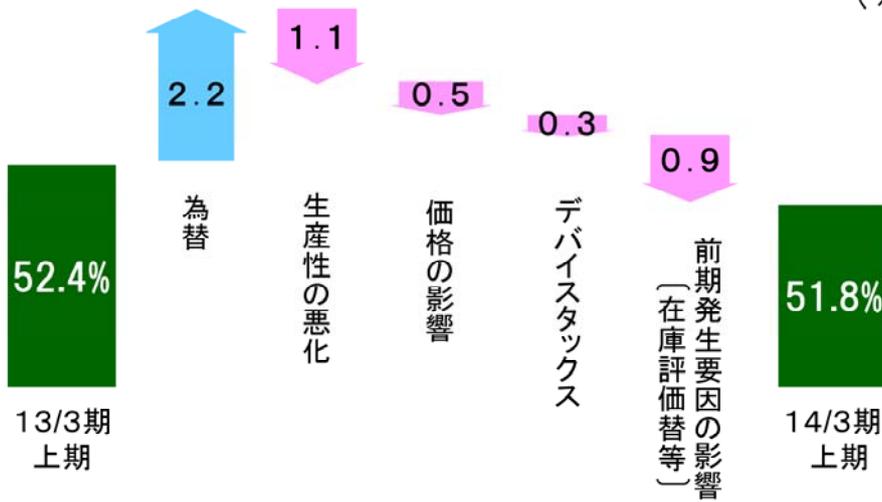
(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計	地域別				合計
			欧州	米州	中国	アジア	
ホスピタル	320 (2%)	97 (3%)	28 (-12%)	23 (-2%)	3 (-8%)	42 (20%)	417 (2%)
心臓血管	120 (8%)	386 (7%)	138 (7%)	161 (7%)	46 (24%)	42 (-5%)	506 (8%)
血液 システム	34 (-0%)	191 (6%)	60 (2%)	93 (6%)	10 (10%)	28 (14%)	226 (5%)
合計	475 (3%)	674 (6%)	227 (3%)	277 (6%)	59 (19%)	112 (8%)	1,149 (5%)

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く

粗利益率差異分析

(%)



(参考) Q1実績

53.9% +1.8 -2.2 -0.4 -0.3 -1.5 51.3%

販管費

(億円)

	13/3期上期	14/3期上期	増減	増減率
人件費	254	313	+59	+23%
販促費	57	70	+13	+24%
物流費	50	54	+4	+8%
償却費	86	109	+23	+27%
その他	152	168	+16	+10%
一般管理費計	599 (31.2%)	714 (31.5%)	+115	+19%
研究開発費	124 (6.5%)	153 (6.8%)	+29	+23%
販管費合計	723 (37.7%)	867 (38.3%)	+144	+20%

()内は対売上高%

粗利益率、販管費率、営業利益率

(%)

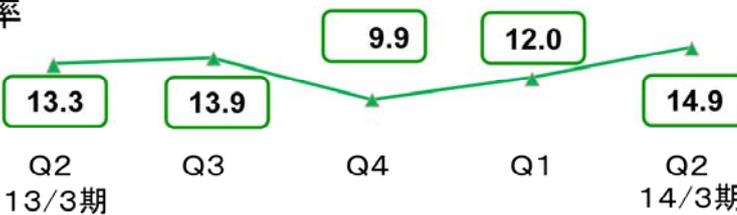
粗利益率



販管費率



営業利益率



Q2
13/3期

Q3

Q4

Q1

Q2
14/3期

(各四半期の3ヶ月単位)

設備投資と研究開発費

(億円)

	13/3期 実績	14/3期 見通し	14/3期 上期実績
設備投資*	322	450	252 (56%)
償却費*	326	370	189 (51%)
研究開発費	271	300	153 (51%)

* のれん・無形資産含む
設備投資は取得ベース

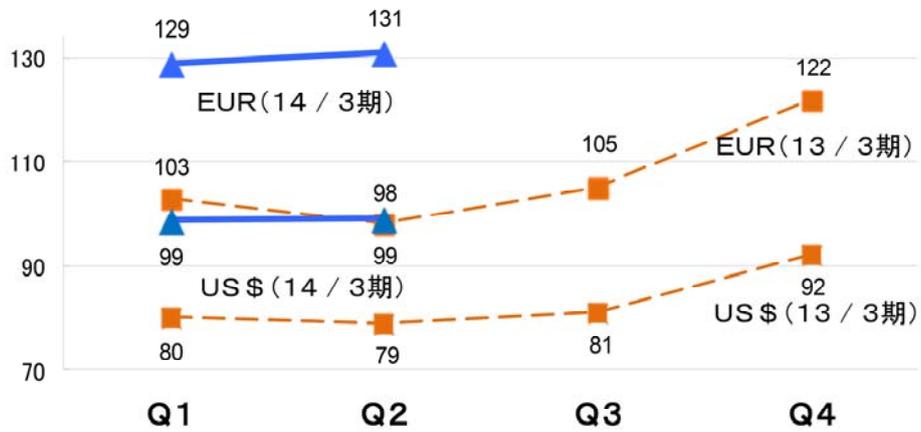
%: 対年間見通し割合

為替感応度

(億円/年)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4

四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。